

昭和13年9月1日（木）

台風横濱を襲ふて、八王子附近より新潟に出づ。被害多し。当地方は珍しく快晴。朝八時四十分駅に行きしも、守谷氏見当たらず。何分、多数の入営者として、駅内混雑一方ならず。構内にも多数見送り人あり。小学生多数も送迎する等、物色不能。空しく飯局。次いで永江氏駅まで行かれしも、同様不得尋飯らる。守谷氏十時頃臨局。餞別貳円守谷氏に贈る。午後五時半、計算不合、五円剩ると云ふ。昨日五拾銭臨時受け、本日亦臨時受けは都合悪し。六時飯宅。夕飯余の為に待居る。水浴、直に夕餉に向かふ。嬰兒の湯浴みに手伝ひ、夕刊を見て午後九時、床展ぶ。珍しく早し、ラジオを聴き九時四十分寢床。

昭和13年9月2日（金）

朝より多少曇り、次第に険悪の模様を呈す。午後、竹折君来たり。栄町小野局長来る。竹折君のみ上がり局長に直接談判したるに、積極的に承知せぬまでにも、出来るかも知れぬと云ふ挨拶であったと云ふ。息子が入営したので、熊本に行き庶務課長に挨拶するらし。其の折、本問題に付き協議するかも知れずとあり。栄町長は百円債券は売れぬとて来たる。一つ松に行く序でに立寄りたるらし。今津局長より、債券代金の請求に娘を遣こす。受領証を受取り、245円を手交。其の旨、鶴居に通告す。

昭和13年9月3日（土）

午前四時半頃より降雨、少時して歇む。其の後曇り。昨巖釣魚に行き六時頃飯りしも、朝吹氏に与へしか、一尾も持来たらず。尋ねても見ざりし。八時頃概して晴れ。

一部驟雨の地方ある如く、一団の雲翳漲るを見る。中津局長子息入営。餞別二円。永江氏切手請求の際、木下君に頼む。一つ松局長室病死、本日午後五時葬式の旨電話あり。福岡行きを中止。電報にて十一時頃通告す。守谷氏母堂、余に挨拶に来局。折角請じて局内に入れしも直ぐ皈らる。午前二時半頃より雨模様となり、三時近く降り出す。中尾氏来翰。午後三時、耶馬溪局長臨局。室内に招じ四時出発。天神街角にて中洲行きバスを待つ。四時三十分出発する由、四時二十分バス到着。四時三十五分発車、十二名程詰込む。東浜新田に拾五銭、五時前五分到着。竹内氏に面会。令閏三十九才、腎臓病らし。七月中大学病院に入院。三十一日午後三時の汽車にて局長再び出福。一日患者を自動車にて連行、自宅に二日居りて死去の由。四児あり、幼い三才、長は尋六。香奠一円す。寺院にて焼香す。葉書三枚会葬御礼に頂き、帰りに長野氏と徒歩。五六丁にして恒遠氏医師らし。自転車に乗れと薦む、兩名乗車。七時前到着、驚いて居る風。飯を炊きて呉る。其の間風呂に入る。十時近くまでラジオを聴き寢床。和博下痢の趣、割合に元気なり。

昭和13年9月4日（日）

朝の間晴れ。午後二時頃より、雷鳴驟雨。第四種を速達とし一銭損す。永江氏主婦之友を見、戸外を覗きし刹那、姉や来る。午後二時過ぎと覚えし。一緒に出発、皈宅す。恰度雨歇みたる時なりし。到着間もなく再び降り出す。台風今回は、南洋生まれの猛烈なもの途中に在りとあり。

昭和13年9月5日（月）

午前二時過ぎより風雨猛烈。起きて窓を閉ざす。明け方

まで降る。夜明け歇むも、猶驟雨の様。終日涼し。台風神戸の西に上陸。能登半島より日本海に逃げ、至る処水害を醸す。遂に降らず。午後五時帰る。訂正もの等にて、余の仕事忙し。

昭和13年9月6日（火）

降雨、終日続く。午後一時半、森下より千円余の印紙請求あり。時間外とて余行く。時間外にて済ますと断り、郵便や保険にて油を売る。印紙は森下に届く。ベルツ水20にて求む。五時帰宅。雨歇まず。涼風遂に汗を見ず。水浴、テンプラを頂く。和博軽快、悦子夕食単独にて食す。雑炊なりし為か。九時十分床展べ、同二十分寝床。

昭和13年9月7日（水）

朝より霽れ、晴天となる。巖に遣はしたワイシャツを着せらる。光友まこと誌、中尾氏に贈る。封緘葉書求む。此の日も、法規通牒中より抜粋し参考に書上ぐ為、忙しく働く。和博普通の状態になる。気候余程涼し。朝夕は冷気頓（とみ）に加わる。寝巻一枚にては足冷ゆ。

昭和13年9月8日（木）

晴れ。今津局長より国債売出報労金、切手にて送付越しあり。仍（よ）って夫々分配すると共に、同氏長男死去に対し、香奠一円発送し封緘葉書に封入す。此日葉書一万請求。其の運搬を前日通告せず、余、多少早く帰りて巖に持来さしむることとす。四時四十分頃、現金の方も片付きし為、退局。巖子供を連れ龍王に至る。姉や迎えに行く。余、痕を追ふて神社に至り、巖に依頼し更に姉やを早く帰らして静かに眠る。腹空いたと云ふ。然るに案

外摂取せず。巖帰宅して夕食を済ます。風呂沸く、入浴す。嬰兒、悦子も別に湯を汲み入浴せしむ。夜、寝巻二枚掛く。

昭和13年9月9日（金）

昨、中尾氏に封緘にて返書を認む。富士紡前ポストに投函す。此の日、午後より多少降雨。四時頃歇む。姉や途中まで長靴を持参、迎えに来るに会す。割合早く帰宅し得たり。姉や子供を連れ外出。其の跡にて西瓜を持来る。一切れ頂く。夕食頃、子供帰り来たり。和博西瓜を求む。此夜蒲団掛く。

昭和13年9月10日（土）

半曇り、半晴れ。昨到着公局報中、処理を要するものを一時間にて処理す。猶、昨放送協会より申込取次料一円送付に付き、二回分五拾銭是永氏に遣り、余五拾銭を以て髯剃りす。15銭を要す。斯くて此日の局長会に臨む。会費1,50円。耶馬溪倶楽部に開催。二十余名、一つ松局長欠席の外、全員出席。協議事項を決議。中津村上局長を午餐に招待す。午後一時十五分、余切り上ぐ。慶印電報案内を貰ふて局に持参す。永江氏居らず。一時半、三分遅れで到着。それでも小倉にては定時発車、五時前帰宅。胃部拡張の気味あり、吐き出す。夕食を摂らず。夜寒くて寝巻二、毛布一にても足らぬ位。蚊帳を吊らず、夜半幾らか刺されたるらし。久子十時過ぎ帰宅。隣家、若者酒宴賑わう。

昭和13年9月11日（日）

夜寒さに窓閉づ。日中漸く暖かなり。十時近く桑原氏訪

問あり。柳原先生、山崎氏の為に本日見物に行かる。会を代表し、三円現金にて贈られし由。会員への通知状無くなり補充の要あり。先日藤氏より2,50預かりたりとありて、余より1,50差上げ、葉書200枚購入。猶印刷費60銭は、後より差上げを約して十時辞去さる。午後二時より、市場を経て山崎氏邸に至る。鶏卵二ヶ10銭を一円と、箱代拾銭と、計壹円拾銭を支払ひ、同氏邸に至れば、大分快方に向かわれし由。座敷に上がれば奥に寝て居らる。今朝柳原先生見舞いに来られ、植木鉢を持参されしと。前回の「まこと」会に参集者一同の寄書あり。之を掲出し置かる。書家の某氏居らる。挨拶し一寸話して、三十分余にして辞去す。奥さん、余に出されしカステーラ二切れを渡さる。之を頂きて販る。夜五日飯頂く。無窮読む。今回の阿蘇講習の感想録を、全く感激裡に見る。五時半久子帰る。

昭和13年9月12日（月）

澄子等買物に行く。此の間猿又洗濯。夕方までに乾燥せり。夕食に団子を頂く。昨五十銭を渡し、白玉粉、小豆、黒砂糖を求め調整せしものなり。高橋様に手紙を書く。

昭和13年9月13日（火）

朝晴れ、次第に曇り。但し薄雲漲り暑からず。午前中、第一生命に保険料を支払う為、嘗て立替えの拾円と一円五拾銭、計11,50を光友会会計より払戻し、13,370振替払込みにて了す。高橋様宛手紙、同時に発送す。剃（てい）を磨く。夕飯後髯剃りす。久子五時過ぎ帰宅。

昭和13年9月14日（水）

朝、四時頃起床。澄子五時四十分起こす。此朝六時になりしも新聞来たらず。六時半、例の団子を頂き、七時半分仕度して出発す。道子と澄子とに八、九円現在の貯金通帳、各一冊ずつ渡す。澄子より拾銭借用。久子より電車券二区分を、バス券にて交換。駅に至り新聞を買ふ。何日も五時半頃配達されある新聞は、今日に限り、出発当時まで来たらず。新聞見たさに、借らぬともよき銭を借りたり。曇天、時々晴れ。中津に至る間汗出でず。沿道出征兵士の歓送に、構内旗の波多し。四時半頃、松本芳子、由井静子両女来局。来たる二十一日見学の為、飯塚、直方両局にて四日間出張の由。本日出発せしは西主事補以下四名、主事さん引率。而して二十一日は三名の外、中野氏引率の由。而して余に、原口光さんに頼んで呉れとの件なり。名刺遣る。猶、村田主事に土産を持参せしむべく、金一円委託せり。恰度此日、国債売報労金二円を得たり。其の内より交付したり。五時半近く帰る。余も同四十分頃出発。水浴。此の夜、久子よりの手紙及びマッチ十二個巖に遣る。此の手紙にて愈々（いよいよ）本式になる。姉やへの手紙もありたり。

昭和13年9月15日（木）

朝より曇り。大冷氣、寒き位。昨夜より蚊遣香焼かざりし。便所同断。此の日も駅構内、出征兵士の歓送にて人多し。昨中尾氏より、本日永末氏よりと広美より来翰あり。通帳払戻三冊、利子記入四冊提出せり。ラジオ昨来たりし時見えず。巖の指図にて、ラジオ屋持行きし由。此夜巖来たり。姉や福岡に行かぬ由なり。理由は自分が居らずしては間に合わぬのを見て、自身勝手な行動に出づ

る能わずと謂ふにあり。仍って余は、最後の切り札なる和博を連れて行くなら、両方共都合がよからうと申せしに、早速巖は姉やに談じたるに、夫れなら行くも可なりと承諾。爰（ここ）に問題は解決せり。此夜風呂沸き入浴す。巖の後に入り少々温（ぬる）し。再び火を燃し普通の爛になりたり。終日冷気を覚え、智子鼻風邪引きたる如し。襦袢（むつき）が潤れたる為ならん。

昭和13年9月16日（金）

朝早く起き便所に行き、五時二十分頃出る。姉や起床せず。体操を続ぐ、十七八分間。猶、覚めぬらし。遂に起こす。水浴をして戻れば、六時五分なり。昨、今津局長より香奠返し、落雁一折持参あり。局員にも頒配、残余は愛子に遣る。此朝、人蕚（にんじん）味噌食ふ。天気朝の間、恠（あや）しく濃雲かかり居たるが、次第に霽れ快晴となる。午後三時過ぎ逡信局永井書記、中島主事の案内にて臨局。電話通話事務開始に関し、七級地域のみ全部に涉り設備の案なりしに、其の後、本当の節約案に依り、二十余局に減少することとなり、随って、地況の優秀の部のみ架設することとなりしと云ふ。当局のみは、間違いなく出来ると思ひぬ。

昭和13年9月17日（土）

晴天。巖一時に来局、和博行かぬこと。朝吹氏、昨二十五円余を遺失せしこと等を話す。十分頃少し早いが、姉やが待居るだろうと出掛ける。駅にて少時待つ。定時より三四分遅れて発車。巖は三円汽車賃を余に出す。余は前約により受取らず。後にて聴けば姉やに、小遣いには一円を呉れたる由。此の朝、味噌五十銭求めしむ。貯

金四円払戻し。博多駅にて十分遅れ、小倉にて兵士輸送の列車を見送る。途中駅にも歓送兵士の国防婦人など、なかなか賑やかなり。博多駅より電車、南新町より徒歩。久子六時帰宅。久子帰りて姉やを連れ、百貨店及び川端小路に。而して余は髻剃り。七時半星野先生邸に、時に八時過ぎ、既に行事にかかり居れり。途中より列席。桑原氏の感想録、柳原先生の講話ありて十時半閉会。一会員より入会費参円受取り、之を柳原先生立替金に充当せり。桑原氏の印刷代八拾銭は、其の儘、持越すの不得已に至れり。姉や等十時頃帰宅。余より一時間余、早く寝て居る。敷き布団を取り去り、再び莫産に換ふ。

昭和13年9月18日（日）

午後三時頃まで晴れ。猿又洗濯。二時より山崎氏を見舞ふ。偶々（たまたま）氏の服用する中山胃腸病薬解説を見る。肉類、ミルク、牛乳バター、赤魚肉等は決して消化易きものにあらず。特に卵は最も不消化、辛味のものと共に食すべからずと説きたる。思い当たる処あり。氏、大いに元気恢復し起きて居らる。飯塚の須藤氏よりも、見舞品来たれりと謂はる。帰りに市場より胡麻一合九銭にて求め帰宅。姉や久子と活動に行き、四時頃姉や独りで帰り、久子は当番勤務す。夜、道澄と風呂に行けり。

昭和13年9月19日（月）

朝より降雨。久子七時頃出発、勤務。道子等外出。此の間手紙書く。四時頃帰宅。夕食の仕度し、久子と姉や活動に行く。後より聞けば久子は午後一時頃、社より販り、皆と昼飯を済まし、久子と姉やは活動に行ける由。此日終日、歇みては降り、降りては歇む。夜は風呂に行きた

るらし。

昭和13年9月20日（火）

雨、霽れ。秋晴れの天気となる。バスに、電車に乗り三十分時間あり。週報及び新聞を購入。菓子五十銭を求め姉やに振舞い、残りは土産に遣る。十五日全払いに対する払戻金、福岡よりの分、到着し居る。永江氏、玄関敷居等改造。大工を入れ一日を要せる如し。午後五時帰宅。風呂沸く。

昭和13年9月21日（水）

朝六時前、肥汲み来る。其の為、巖等起き出づ。先日来、朝吹氏二十五円入りの袋遺忘。専ら巖を疑うものの如し。四時四十分帰途に就く。巖釣魚、手にて掴みし分のみ多く持来る。朝吹氏も一緒に行きし由なるも、金の問題には触れざりし由。九時四十分寢床。夜冷気を催す。

昭和13年9月22日（木）

朝の間幾分曇り、次第に快晴となる。子供、門内に莫産を敷き積み木して遊ぶ。兵隊に送りし二十円の為替が、豊田町一丁目土管製造某が受取り居る旨、逓信局より接受。経路取調方申越しにより、午後出張。上海の娘より送り越せる由。其の娘も今夜帰省すると云ふ。一先ず判明の分を回報せり。大貞駅より多数の利札の払渡し方、申出あり。計算面倒の為、同局より当局に廻せる如し。五時過ぎまでかかる。坂口正則へ返事出す。道子へも明日帰らぬ旨、葉書す。昨日仙台より静子（すじこ）、巖に送り越せり。午後五時帰宅。風呂沸く、巖の後に入浴。

昭和13年9月23日（金）

朝子供等、何れも早く起床。悦子は洋服着て得意気なり。小学校運動会八時前より割り箆持ち、詰掛けつつあり。和博、悦子共御握り持参。姉や連れ行く筈。巖午後來たり。耶馬溪行きを局員と共にせんことを催す。之を拒絶せり。永江氏重詰を準備して運動会に行き、午後三時頃帰る。坊や三等賞を得たりと喜び居れり。五時前帰宅。午後二時、例の井戸側屋に至れば、秀子氏土産物を並べて甚だ景気よし。徐州に酒保を経営中の出来事らし。一日の売上げ五百円に上りしと云ふ。総て兵隊相手故、為替証書も不少ありしも、誰から受取りしかは記憶せずと云ふ。然もあるべしと思ひて帰局。此の旨、逡信局に回答せり。愈々明日より二日間、余出勤することとなる。中尾氏より来翰あり。余此日帰宅を察して急ぎ投函せしらし。子供等三時頃帰宅せしらし。

昭和13年9月24日（土）

秋季皇霊祭。八時前二三分出勤。局の扉、猶閉じあり。昨日より大貞競馬。朝、煙花（えんか）揚がり、運動会の合図と思ひしが、此の朝も同様にて、初めて夫れと氣附きたり。中尾氏に返事認め、三時過ぎ帰る。永江氏より饅頭頂く。土産に出す。巖、和博連れ海に行けり。多少曇り。

昭和13年9月25日（日）

台風本土を冒さず、銚子沖を通過。未明逸走。此日快晴。第三種五厘弁償、業者差出しにあらざる分は、60グラム毎に五厘を、120gを超えては60g毎に五厘と業者の分を見て徴収せし為、五厘の不足を生ぜり。二時永江氏より

林檎頂く。松本好子氏、飯塚より土産持参。千鳥饅頭一折三十五個入り。守谷氏等の為に各五、永江氏七を頒け、十八ヶを土産に持参す。此の時は女中にも呉れたる如し。三時帰宅。五時夕日を浴びて、悦子連れ外出す。

昭和13年9月26日（月）

此日まで競馬続く。午後曇る。昨、代引き小包番号金額相違のもの到着、公文照会。此日、永江氏切手請求の際、持参せしむ。栄町に誤送と判明。公文書を返して越す。余押返してやる。頼信紙300請求す。昨、小包便に通常書留のみ。結果、普通は取集に不来、窓口預かり郵便物本朝に及びし点、抗議申出づ。松本君不在とあり。午後多少曇り。切手類計数不足らし。余の責任として処理する様、通告して帰る。例に依り拾円、巖に遣る。

昭和13年9月27日（火）

快晴。昨日よりセルの着物に衣更えす。冷氣、漸く身に秘む。松本氏より土産品贈りあり。一は菓子らしく、一は洋品らし。受取る筋合いにあらずと思料。同氏の来著を俟つ。昨日より永江氏玄米茶を下さる。余、強いて其の要なしと辞退す。此日松本芳子氏、油井静子両氏不来。品物返戻方を依頼し五時帰る。例により新聞を見る。巖、風邪の模様。

昭和13年9月28日（水）

昨夜曇り勝ちにて暖かかりし。本朝五時起床。燈火暗く、時刻識別に難し。五時四十分、厠より来たり体操初む。五十分水浴、六時十五分終わる。曇り、時々晴れる。松本好子氏に小包にて品物返戻す。永江氏保険に活動、数

件を獲たる如し。全払い貯金は本日、別の通帳に全部貯金す。二拾円を超ゆ。夜、闇無神社戦捷祈願祭一戸一名参加。巖出頭。万歳の声、暗を破って聞こゆ。神官主宰の催しとあり。九時半寢床。例年より五度も気温高く、蚊多く襲撃し来る。蚊取り線香立つ。昨巖、和博を連れ海岸に行き蛤（はまぐり）を採り来る。其の獲物を豆腐汁して夕餉の膳に供さる。眠る前身体を水にて拭ふも、時節柄珍らし。

昭和13年9月29日（木）

防空演習開始。砂と米とを門側に備ふべき旨、布令あり。朝の間曇り、時々霽れ。蒸し暑きこと甚だし。永江氏保険に活躍。此日切手請求、巖に葉書持来たらしむ。午後五時帰れば、巖図書館に行きし由にて不在。風呂沸き入浴す。浴後夕食。巖風邪の為入浴せず。愛子四人の子供を皆入浴、洗い呉る。夕飯遅く食ふたらし。警戒警報を発令前、九時寢床。

昭和13年9月30日（金）

多少涼しくなるも、猶、例年より暖かき模様。五時起床。夕刊今朝に至り見たる為、本紙一面のみ見て出局。宇垣外相辞職、近衛首相兼摂外相拓相、対支中央機関設置問題の経緯らし。永江氏印紙高額請求の為、十時半頃中津局行き。正午過ぎ帰局。時々降雨の模様なるも、直に歇む。今日も出征兵士の出発に国防婦人の見送りあるらし。昨夜人尋代三拾銭、愛子に渡す。四時半、為替漸く計算にかかる。五時松本、由井両女来。出張中の出来事の話し聞かさる。六時を過ぐ、皆帰りを待つ。品物再び持来る。折り箱は菓子と思ひしに、後に葡萄と判明、

少々腐敗の嫌いありとて持去らんとするを、局員に遣らんとて、今度は其の折を貰ふことにし、遂に他の物と同時に貰ふようになり終わりぬ。葡萄は全部局員に残す。永江氏、到来物の梨五六個を贈らる。六時三十分帰宅。悉く家に出す。品物はタオル、小倉の井筒屋より1, 27の品物なり。梨、七時二つ剥く。余二切れ頂く。巖も食べ残り持行く。此果物、頗る美味。二十世紀と思はる。幾分、品磨かれしあり。